

鳳陽

第180号

令和6年1月15日

発行所 一般社団法人 鳳陽会
(山口大学経済学部同窓会)

〒753-0089 山口市亀山町3-1

TEL・FAX (083) 924-4361

E-mail : houyou99@crocus.ocn.ne.jp

印刷所 株式会社マルニ

—— 開学の祖「上田鳳陽」先生 (1769～1853) の教えを汲み ——



防府天満宮

(撮影：鳳陽会 事務局)

行事予定

○令和6年6月8日(土)

・第94回 通常総会

・鳳陽会 支部長会議

於リーガロイヤルホテル広島(広島市基町)

令和6年 新年のご挨拶

一般社団法人 鳳陽会
理事長 松永 昭博(学21)

全国の支部長会議を広島で

令和6年の清々しい新年を迎えました。私たちが青春時代を過ごした山都・山口は今も美しく、一の坂川は清らかです。

◇全国各地で支部総会

令和5年はうれしい出来事が相次ぎました。北海道支部や東北支部、松江支部、尾道支部、佐賀支部、長崎支部、宮崎支部などで支部総会が続々と開催されました。また、山口支部は山口大学経済学部第2大講義室で支部総会を開き、母校とのつながりを深めました。

今年6月、広島で開催される通常(全国)総会の日程に合わせ、全国支部長会議を開催します。地元の同窓会活動に献身的に取り組んでおられる支部長の皆様方の声を聞き、今後の鳳陽会の活動に反映していこうと考えています。

全国の支部長が参加してこそ、本来の総会のあるべき姿です。今年 は原点に立ち戻りたい。旅費は鳳陽会本部が支出します。ご参加ください。

◇4年ぶりの通常総会

令和5年6月17日、宇部市で4年ぶりに通常(全国)総会が開催されました。

宇部・山陽小野田支部の床本隆夫支部長のリーダーシップのもと、支部同窓生が一丸となって取り組み、心温まる総会を実現してくれました。

その気概と心意気に感動しました。ほんとうにありがとうございます。

令和6年は広島で開催されます。広島支部は鳳陽会への想いが深く、強い支部です。全国の同窓生が集う総会に向け、着々と準備を進めてくださっており、感謝申し上げます。

◆理事会で熱く協議

令和5年10月21・22日、新山口駅周辺の会議室で鳳陽会理事会が開催されました。東京、大阪、広島、山口、福岡の理事が集い、活動方針を熱く、語り合いました。

広島での全国支部長会議開催もこの理事会で協議し、決定したのです。

また、鳳陽会の資金運用についても議論しました。時代の流れを読み、リスクを最低限に抑えて、公共債社債を軸にして資金運用を図る基本方針を決定しました。令和6年度から具体的な運用を始めようと考えています。

私は1970年代、山口で暮らしました。今でもおりにふれ、山口の青春時代を懐かしく思い出します。

冬の山口といえばフグです。私は山口市内の鮮魚店でアルバイトをしていました。日本海で朝、水揚げされたフグがその日の早朝には山口の鮮魚店に運ばれてきます。料亭や湯田温泉の高級旅館からの注文が入ると、店の人がフグをさばきます。薄い刺身を大皿に菊や鶴の姿に盛り付けます。寒風吹く中、私はそのフグの大皿をバイクで届けるのです。学生には縁のないフグの大皿。将来、たらふく食えることができるようにと願ったものです。

◆母校愛を大切に

山口大学経済学部で学生諸君はこれまでコロナ禍で大変な学生生活を送ったことでしょう。ようやく非対面の制限が解除されました。積極的に勉学やサークル活動などに励んでください。

同窓生の皆さん。コロナ禍もようやく終息しました。外に出て体力、気力を回復していきましょう。地元の支部総会や行事に参加してみたいかがでしょうか。皆さんの活動が鳳陽会の存続、発展につながります。

私たちは山口大学経済学部を卒業しました。母校愛を大切にしていきたいと思います。最後に令和6年が皆様にとってよき年となりますよう祈念して新年のご挨拶いたします。

全国支部長会議を開催!!

第94回通常総会（全国総会）の開催に合わせて、全国支部長会議を開催します。鳳陽会各支部の現状を把握するとともに、支部運営に当たっての課題、活動の活性化に対するご意見等をお聞きし、コロナ禍後の鳳陽会活動の活性化に向けた取組に反映していきます。

詳細決定後には別途、ご案内を差し上げます。万障繰り合わせの上、ご出席いただきますようよろしくお願いいたします。

記

- 日時
令和6年（2024年）6月8日（土）午後
- 場所
リーガロイヤルホテル広島 3階 「宮島」
〒730-0011 広島市中区基町 6-78

学園だより

夏期フィリピン英語特訓留学

大成功でした!

経済学部観光政策学科

特命教授

山根

和明（学15）

昨年8月27日から9月24日までの4週間、30名の学部生がフィリピン、バコロド市のラサル大学付属語学センターにて毎日7時間の英語特訓講座に臨み、一人の脱落者もなく見事やり

遂げて帰国しました。出迎えた関西空港での彼らの輝くような笑顔に感動しました。皆、口々に「生で忘れられない体験になった。これからは英語の勉強を続けてグローバルな人間

になる!」と言っていました。このような素晴らしい体験ができましたのも鳳陽会のご援助のお陰です。深く感謝いたします。

また、留学生の協力で行う、画期的な英会話授業（最初の40分で受講生同士がペアで基本表現、日本事象などの脚本を練習し、後半40分に留学生が入って来て、一対二または三で会話実践に入る）も好評で、多くの学部生が英語を話せるようになったことができました。「山大経済出身の学生は

英語が話せる者が多いな」と実業界で言われる日が来るように、今後も粉骨砕身頑張ります。

このような授業ができるのもすべて鳳陽会からのご厚志があつてこそです。留学生をアシスタントとして10名お願いした場合、一回で一万円（一人千円）、一カ月で四万円、一学期では十二万円もかかるのです。これをすべて鳳陽会が出して下さるのですから、可能なのです。本当にありがとうございます。



英会話授業受講生と留学生の皆さん

本誌への広告のお願い

- ★1/3頁 … 40,000円
 - ★1/6頁 … 20,000円
 - ★1/9頁 … 15,000円
 - ★名刺版 … 5,000円
- 事務局では、皆様方からの広告掲載の申込みを募集しております。サイズ、料金は左記のとおりです。

フィリピン留学に
参加して

〇二年 平方 陽大

今回のフィリピン留学で、多くのご支援をいただいた鳳陽会の皆様、山根先生、他関係者の皆様、誠にありがとうございます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。皆様のご支援のおかげで私は貴重な体験をすることができました。

ここでは、留学に関するアドバイスなど、有益な情報はなにかもしれませんが、どうかご容赦願います。私は最初、「皆と違った経験をしてみたい」と大学生になった勢いそのままに今回の留学の参加を決意しました。

もちろん海外で英語を勉強したいという気持ちもありました。しかし、その気持ちは長く続かず、日が経つに連れて不安が強くなり、留学に行きたいという気持ちは薄れていきました。

今となつては、勢いで決めて良かったと思います。そんな気持ちで始まった



山根先生と留学に参加した学生のみなさん

フィリピン留学。私の英語力はろくに喋れず、ひどいものでした。そして友達もほとんどいない状況。留学最初の一週間はとてきつものでした。マンツーマンの授業ではまともに言いたいことが言えず、グループクラスでは仲間について行けず、これが一か月も続いた。しかし、私は、寮に帰った後は単語帳を見返

したり、フレーズを覚えたりと、自分なりに努力をしました。

そうして一週間が経った頃、先生や留学仲間と仲良くなり、カタコトながら何とか会話ができるようになり、だんだんと心に余裕が持てるようになりました。先生や仲間には感謝しかありません。皆が私に話しかけてくれて、優しく接してくれなかったら、私は途中で荷物をまとめて帰国していたかもしれせん。というのはさすがに冗談ですが、それほど私は皆に支えてもらいました。

また、バディプログラムという現地の学生と関わる活動も私の大きな助けとなりました。最初は全く会話がなく、気まずい時間もありました。それでも彼らは一緒にいないときでもSNSを通じて常に話しかけてくれました。私のバディはどこのグループのバディよりも友好的で、彼らが私のバディで本当に良かったです。英語を

話すことへの抵抗感を和らげてくれたのはこのプログラムが大きな要因だったと思います。まさに英語力の向上にはもってこいのバディ。これをきっかけに、授業に行くのが楽しいと思えるようになりました。

しかし、留学期間は一か月。フィリピンでの生活にも慣れ、先生や仲間との友情も一段階深まったところで帰国となりました。最初、現地の先生に滞在期間を伝えると「たった四週間？」と言うのに対して、私は「何を言っているんだ。一か月は長いでしょ。」と思っていました。でも、実際に帰国が近づくといか月はあつという間に感じました。この一か月という絶妙な期間がもつと英語を勉強したいという学習意欲に拍車をかけているのかもしれない。

フィリピン留学を終えた今、私には新たな目標が二つできました。一つ目は、留学で関わった人と再会するまでにスラと会話ができるようになることです。この留学で私には二人のお手本となる人が見つかりました。彼らは外国の人を相

手に堂々と英語を話していました。それも流暢に。私も彼らのようになりたいと思いました。二つ目は内面的な自分を変えることです。今回の留学期間中も何度も指摘されました。私は人見知り故に黙ってしまっている、自分から話しかけようとはしませんでした。今回の留学期間中に少しは改善されたとは思いますが、この先、まだまだ多くの人と関わると思うので、今のうちに積極性を身に付けようと思います。

最後になりましたが、私は日本にいたら味わえないような経験をすることができました。この機会を用意してくださった皆様に本当に感謝しております。この一か月で経験したことを無駄にしないよう、これから日々尽力します。

〇三年 村上 裕和

私は留学に参加する以前から、中級レベルの英語なら理解できている自信がありました。そのため、留学期間中に学んだ英語のレベルの高さに非常に驚かされました。さらに、英語を理解すること、会話が上手

にできることや交流が生まれることは別物であるということを、強く感じることでできた一か月であつたと認識しています。

今回の留学では、英語を積極的に使おうとする姿勢を、私を含め学生全体が得たように感じました。日本人学生30名、そのほとんどが海外経験のない学生でした。最初は緊張や不安から多く、留学を希望したものの、英語を話すことに自信のない人も多くいました。文法や単語を知っていても、いざ会話となるとなかなか言葉が出てこない、文章が上手く作れないなど、英語を使用することにためらいがあつたように思えました。しかし、L S L Cの先生方や寮の外国人留学生との交流が増えるにつれて、学生のほとんどが自分から話題を持ち出し、外出するようになり、積極的に交流するようになりました。

私自身は英語を話すことは苦ではなかったのですが、人との交流があまり上手ではなく、内向的であることをL S L Cの先生方から指

摘されました。ラ・サール大学では、人間関係構築のために特別な授業を設けるほど、勉強と人間関係のバランスを重視しています。私もそれに倣って先生方や他の学生とより積極的に交流するように心がけました。自分の殻を破って行動する大切さを学ぶことができ、この留学に参加してよかったと思います。

現在、私はTOEICの記録更新を目標に勉強しています。今回の留学で毎日のように英語に触れて生活したことが、少しでも記録の更新に繋がるよう勉強に励んでいます。

また、山根先生の英会話クラスにも引き続き参加し、山大留学生との交流を通じて、英語力の向上も目標としています。このクラスの面白い点は、様々な国から来日している留学生の特徴的なアクセントに触れ、普段CD音声などで聞くアメリカ英語との違いを肌で感じる事ができるところにあると思っています。自分の世界を広げるための機会が身近にあることに感謝して、英語学習に励みたいと思います。

“Time passes quickly, but you just have to break out of your shell and do what you want to.”

この留学の中で、何度も時が経つのが早いことを実感しました。それでも、必ず毎日の中で得られたものがあると実感できる、新しい経験を積み重ねることができたと思います。

これから留学を考えている皆さんは、留学に際して様々な不安が、そして留学中にはトラブルもあるかと思いますが、その不安を自分で抱え込まず、他の仲間と共有できるような関係になりましょう。一つ一つの出会いを楽しんで、何事も恐れずに挑戦をしてほしいと思います。

〇四年 岡田 叶美

今回、山根先生と有村学部長をはじめとする先生方や鳳陽会の皆様のご協力のもと、フィリピン留学に参加できましたことを心から感謝いたします。

私は、大学に入ったら必ず留学すると決めていました。しかし、一年生の時に、新型コロナウイルスの感染

拡大により留学が中止となつてしまいました。留学は大学卒業まで叶わないものと半ば諦めていましたが、今回、貴重な機会に恵まれ、様々な経験や学びを得ることができました。

まず、今回の留学では、短期の海外旅行などでは感じることができない一対一の深いコミュニケーションを取ることで、私にとって最も貴重な体験となりました。

私は元々、異文化に興味があり、機会があれば他言語を学び、その土地の人々と交流していきたいと考えていました。しかし、今までは、海外旅行などでその時限りのコミュニケーションしか取ることができませんでした。しかし、今回の留学で、寮でも他国の人と交流し、やがて友達となり、国や言語の垣根を越えて接することができ、より多くの文化や考えを知ることができました。このことは、私にとって世界が大きく変わるほどの衝撃を受けました。

そして、国や言語を越えてコミュニケーションを取る際に橋渡しになるのが

「英語」であると身をもって経験しました。これまで「英語は単なるツールである」と聞いたことがありますが、どれほどの役割を果たしているのか理解できてはいませんでした。今回の留学で、英語が話せる・聞ける・書けることで、想像以上の知識や経験を得ることができると感じ、今まで本気で学ばなかつたことに後悔すら覚ええました。留学中、「もつと話せたら、もつと聞き取れたら……」そんな思いで毎日勉強や交流に勤しみました。きつと満足に英語が話せるようになるまでこの思いは変わりません。

今後の抱負としては、TOEICのためだけではなく、もつと多くの人とコミュニケーションを取るために、そして、自分の思いや考えをしつかり伝えられるよう英語を勉強したいと思っています。



卒業証書を手にするみなさん

人は、恥ずかしがり屋な自分を克服するために留学を決心しました。どんな目的でもいいと思います。必ず何か一つは成果を持ち帰ることができよう頑張ってください。応援しています。



わたしの就職活動

◇観光政策学科 小貴隆成

私はメガバンクへの就職を決めました。就職活動中は面接練習を100回以上行い、最終的には計7社から内定をいただきました。本選考にエントリーした20社は落ちることなく、全て内定か選考辞退という形で就職活動を終えました。これからその就職活動について記述します。

私は3年生の4月から就職活動を始めました。商業高校出身ということもあり、入学当初からメガバンクなど大手金融企業への憧れが強く、就職活動開始時もメガバンクを第1志望としていました。しかし、本学からの実績は、近年非常に乏しく地場証券や地方銀行なども視野に入れました。6月頃からは合同説明会に参加し、視野を広げつつ金融業界中心に夏インターンの申し込みをしました。しかし、結果はほぼ全減でした。

その原因をWebテストの勉強不足とESの質の悪さと捉え、改善に努めました。

そこでMatcherというアプリを活用したり、本学の23年卒の先輩を頼ったりすることでESのブラッシュアップや就活知識の獲得を行いました。そうすることで秋冬インターンシップには金融業界を中心に化学メーカーなど視野を広げつつ20社ほど参加できました。

私が就職活動を順調に進めることができた最も大きな要因は面接を苦手分野から得意分野に変えることができたことだと考えています。冒頭でも記述しましたが、先輩を頼ったりコミュニケーションを活用したりすることで100回以上模擬面接を行いました。それにより鍛えられたのは「立ち回り方」と「説得性」です。

立ち回りに関しては何度か練習することで様々な角度からの深堀りに耐えられるようになり、自信を持った立ち居振る舞いを行えるようになりました。また、何にでも「結論ファースト」で話せるようになり、志望動機など、話すこと全てに「理由+原体験」を交えることで誰からも覆されることのないものを作り上げました。

望動機など、話すこと全てに「理由+原体験」を交えることで誰からも覆されることのないものを作り上げました。

自己分析に関しては、一般的に行われている方法ではなく「面接で伝えたい人柄」から逆算して、「面接で話すネタを探す」という目的で行っていました。WebテストやESはネガティブチェックの要素が強いと考ええるため、後輩の皆様には面接に特に力を入れてほしいです。また、OB訪問は志望動機に説得力を持たせる目的で合計30回ほど行いました。

私の就職活動を振り返ると、周囲に恵まれていたと実感します。メガバンクから内定を獲得された本学の先輩や、学歴・経歴共に優秀な24年卒にも出会い頼ることができました。秋ごろからは友人と共に就職活動を行い、モチベーションを維持することができました。鳳陽会常務理事の石畠様には特別お世話になりました。私の就職活動に携わってくれたすべて方々に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

本学からの就職実績が乏しい企業への就職ということで非常に不安ですが、就職後も私の夢を実現するために精進します。

◇経営学科 小川 結子

私は、3年生の夏頃から就職活動を始めました。最初は、大学からの案内で知った山口型インターンシップを利用して5日間のインターンシップに参加しました。秋から春にかけてはオンラインのインターンシップや説明会に参加し、幅広い業種について調べました。

就職活動を進めていく上で大切だと感じたことは、3つあります。

第1に、早めに取り掛かることです。私は、自分が何を目指したいのか定まっていない状態で就活を始めたため、就活を進めていく中で気持ちの変化が何度もありました。最終的に目指す業界が明確に定まったのは4年生の5月頃です。エントリーシートの作成など実際に就職活動を進めていく過程で、行きたい業界に出会うことができました。目指す業界が決まってから

はスムーズに就職活動を進めることができたため、早い時期から自己分析に取り掛かっておくことが大切だと感じました。

第2に、学生のうちに様々なことに挑戦し、取り組んでみることです。私は、部活動とボランティア活動に力を入れて取り組んでいました。面接では、始めたきっかけやその経験を通じて学んだこと、仕事をする上でどのように生かせるかなど、様々なことを聞かれました。想定外の質問に対しても、それらの経験についてしっかりと振り返りができていたということ、普段からいろいろなことに気をつけて考えながら活動していたので、自信をもって答えることができたのだと思います。

第3に、面接は会話だという感覚で臨むことです。就職活動中の失敗した経験として、初めての面接で、事前に考えておいたことを一方的に話すだけのようになってしまう、自分のことを十分に伝えることができなかったということがあります。その次からは面接を会話だと思ふようにしたこ

とで、少し緊張もほぐれ、伝えたいことを素直に伝えられるようになりました。

私にとって就職活動は、自分のやりたいこと、そして長所や短所に改めて気づくことができ、とても充実した楽しい時間でした。就職活動中は何度も方向転換をしたため、不安や焦りを感じたこともありますが、最終的に納得のいく形で就職活動を終えることができました。これから就職活動をされるみなさんも、自分のペースで就職活動に取り組んでほしいと思います。

◇経営学科 末吉 功明

私は就職活動を大学3年生の12月に始め、年明けの3月中旬頃に就職活動を終えました。周りと比較するとかかなり短期間で就職活動を終えた私ですが、就職活動の中でインターンシップや合同会社説明会など自分の就きたい職業を見つけるようなイベントには全く参加していませんでした。そこで、私がどのようにして自分の就きたい職業を選び、納得のいく会社の内定をいただくことができたの

かについてお話しします。

私が就職活動で最重要視したことは「将来の理想像を明確にする」ということです。将来どのような人間関係を築き、職場でどんな役割に就いて、社会や身近な人に対してどのような価値貢献をできていたら理想なのかを考える。そして、どういう自分が誇らしく思えるのか、ということを考えて、これまでの人生で得た価値観や何かを成し遂げた経験を手掛かりにして理想像を作り上げていきます。その作りに上げた理想像に対するアプローチを3年後、5年後、10年後とより具体化する。ことで、自ずと自身の就くべき会社、働き方、ないしは日常の行動指針まで明確にすることができると思っています。

もちろん、就職活動では選考を通過するために集団面接やESなどの細かいテクニックが必要になってくる場合もありますが、基本となる面接では面接官に「思い描く理想の将来」について熱意を持ってぶつけてみるのが大切です。自身の人生を振り返って気付いた価値観や気持ちの変化を

鮮明にイメージした状態で「御社が目指す先に私の理想があります」と心の底から思い、誠実に伝えることができると思に響く面接ができると思います。

ここまでコツについて話しましたが、就職活動に正解はないと思っています。大手に内定をいただけたから凄いい、就職活動を早く終わらせたから偉い、なんてことはありません。どんな会社にも就職しても、まして就職せず別の道を選んだとしても、目標を見失わない限りその人の心次第で人生はどうにでもなっていくと信じています。就職がゴールではないとよく耳にしますが本当にその通りです。是非、日常の中で理想を描き、人生を長期的にとらえ、就職活動をも楽観的に捉えることのできる心構えをもって取り組んでください。



支部だより

名古屋支部

第三八回

懇親ゴルフ会の開催

令和五年十月二十八日(土)、第三八回懇親ゴルフ会を「森林公園ゴルフ場」(愛知県)で開催しました。今回も現役で仕事を続けておられる若い皆さんの参加を期待し、土曜日の開催としましたので、期待通りの七名での実施となりました。当初は十名内外を予想していましたが、それぞれの事情や体調不良などで七名に留まりましたが。

幸い前日までの雨も上がり、少し強い風の時間帯もありましたが、最高気温も二十四〜二十五度程度の穏やかな小春日和の中で楽しいラウンドとなりました。

結果は下記のとおりで、笠井裕(学19)さんが堅実なプレーで前回(今春開催の第一三七回)に続き、見事に連覇を達成されました。

次回、第一三九回は来春の四月二十七日(土)、岐

阜県下のゴルフ場での開催を計画しています。多くの皆さんの参加をお待ちしています。

記

【成績】

(ダブルペリア形式、敬称略)

優勝 笠井 裕 (N77.2)

準優勝 中谷 洋一 (N78.4)

第三位 乾 昌博 (N79.4)

【参加者】(敬称略)

乾昌博(学9)、吉山嘉久(学17)、笠井裕(学19)、川村恒治(学22)、中谷洋一(学29)、稲垣太門夫(学36)、権藤淳一(学45)

以上 (川村恒治記)



京滋支部

京滋支部総会開催

令和5年11月11日(土)、前日からの雨で心配されましたが、曇り空の中、コロナ禍鎮静化後の令和5年鳳陽会京滋支部総会をJR京都駅前「都ホテル 京都八条」にて開催いたしました。出席者は当初14名予定でしたが、体調不良で1名欠席し、眼科手術後にも拘らずサングラスをかけ乾杯迄頑張つて出席いただいた方、山口より令和4年4月から経済学部長となられた有村貞則様と石島事務局長様のご来賓として出席され、大学5期から大学36期まで総勢13名が参加しました。

はじめに、記念撮影し、物故者に黙祷した後、高商校歌をマスクを外し斉唱して、総会がスタートしました。この日の支部総会が、前身の京都支部から数えて、通算806回の月例会にあたり、三坂支部長からは、諸先輩方が築いてこられた伝統を継承すると

もに、関西地域の会員が揃い、更に交流を深め、オール関西で盛り上げていきたいとの力強い挨拶がありました。

続いてご来賓初参加の有村経済学部長様からは、学部紹介パンフレットにて母校の現況報告と協力要請がありました。

例年通り、収支報告、監査報告があり、併せて寄贈桜の状況、支部会員動向、次年度行事予定が説明され、総会は無事終了いたしました。

最長老89歳の山岡先輩の乾杯の音頭で始まった懇親会では、たちまち青春時代



にタイムスリップして、卒業期は異なるものの、懐かしい山口時代を語り合いました。鳳陽会紹介誌「花なき山の・・・」、山口観光パンフを基にご来賓の石島事務局長様の挨拶、続いて大阪支部長代理、横出俊一(学34)様のご挨拶がありました。

今回初参加で、久しぶりに京滋支部新加入の田房茂(学17)様のスピーチで盛り上がりも最高潮のところで檄を飛ばし、全員で鳳陽寮寮歌、大学学生歌を熱唱し、今年の大河ドラマ「どうする家康」に勝るパワーを爆発させました。

最後に京滋支部前代表幹事の西田先輩からご挨拶と力強い一本締めで、来年も元氣にお会いしましょうと約束し、散会いたしました。

【来賓】

有村貞則経済学部長

石島克幸鳳陽会事務局長

(学26)

【出席者】(敬称略)

山岡誠(学5)、西田稔(学15)、小林貞夫(学17)、永見忠征(学17)、田房茂(学17)、三坂直彦(学18)、白橋渉(学19)、川原章(学19)、

原英一(学25)、横出俊一(学34)、衣川哲悟(学36)

(川原 記)

岡山支部

支部総会を開催

鳳陽会岡山支部総会が令和5年11月12日、サンビーチ岡山で開催されました。当日は完走者に「備前焼のメダル」が授与される岡山マラソンも開催され、町にも賑わいが戻ってきています。

集いしメンバーは、長寿の節目を祝う風習「卒寿」「喜寿」「古稀」「還暦」の各年にあたる同窓も集うという吉日となりました。

議事次第に基づき、高見支部長の挨拶、会員動向報

告、財務報告、主要行事報告と続き、お楽しみの懇親会へと総会は移っていきま

す。今回の参加者は顔馴染みのメンバーだったこと、また8名ということで、一つの大テーブルに着座の形で開催。財務報告でも金額の質問、説明というより、その金額の持っている意味、支部の活動、今後の運営にとまじく行動会計的な審議、また真剣な議論です。

先に行われた広島サミットの向こうを張った「岡山サミットG7+1」といった様相。

乾杯は中砂先輩による大変味のあるご発声！

コロナ、インフルと感染症対策ということで各自マスク着用・・・大先輩から、聞き取りにくいからマスクを外したら？との提案。もって胸襟を開いて久しぶりの再会をもっともって楽しもうじゃないかの提案にも通じ、その後は、大変愉快な、そして充実した集いとなりました。

幹事が予定していた各自3分の自己紹介のプランも「参加者の熱

で打ち崩され、さながらゼミのような形式へ。報告者への矢のような質問(笑)、議論の交通整理、話題を膨らます各々の会員。内容も近況から始まり、学生時代の話、親の介護の話、山口を再訪した時の驚きの話、骨董商、画商のような話、当地にある美術館、銀行、就職戦線等々の秘話。

余興で企画したビンゴゲームは特別ルールを作成し、年配の先輩に見事景品を獲得して戴くことも出来幹事一同冥利に尽きる。

締めには円陣にて互いの肩を組み、「山都追遙歌」を斉唱♪様々な場面で鳳陽会の結束の強さを改めて感じる良い機会となりました。

(文責 内藤)

尾道支部

令和5年度

尾道支部総会開催

令和5年9月16日、鳳陽会尾道支部総会開催に合わせ、全学部合同の総会をグリーンヒルホテル尾道で開催いたしました。残暑厳しい時期でしたが、総勢11名にお集まりいただきました。



なったこともあり、今年例年通り観光客で賑わっています。特に昨年5月にG7広島サミット2023があつたこともあり、欧米系の外国人が多く見受けられます。

【来賓】

有村貞則経済学部長

石島克幸鳳陽会事務局長

(学26)

【出席者】(鳳陽会のみ)

村上庄蔵(学3)、小西理文(学15)、亀田茂登(学27)、山内栄式(学38)

(亀田茂登 記)

福岡支部

令和5年9月21日

秋季親睦ゴルフ会

当日は、鳥栖を過ぎ、長崎自動車道へ入る頃から雨は強くなり、バケツをひっくり返した様な土砂降りとなりました。ライトを点灯しても前方がよく見えなくなり、天気予報が当たったことを思い知らされました。今回のゴルフ会は初めての県外での開催となりましたので、なんとか実施をと祈るような気持ちで車を走らせました。

その甲斐あつてか、佐賀

【優勝】松田和男(学21)
【準優勝】草野浩一(学29)
【3位】鬼丸修一(学12)

お蔭様でコンペも順調に進み、晴れやかな笑顔で競技を終えることができました。「晴れ男たち」の楽しい親睦会でした。

記

結果・参加者は次のとおりです。(敬称略)



第28回

三経戦ゴルフ大会

悲願の団体優勝!! 遂に勝ち取ることができました。

コロナの影響で、2年間開催を見送り、昨年もその影響が残る中、なんとか競技だけは再開したものの、表彰式のない大会でした。

令和5年10月19日(木)、



【参加者】

鬼丸修一(学12)、林頼二郎(学18)、上田仁教(学18)、加藤久典(学20)、松田和男(学21)、脇野賢一(学24)、山口栄次(学25)、川上知昭(学26)、砂田八郎(学26)、草野浩一(学29)、森川康朗(学29)

文責 加藤(学20)

各校より45名のメンバーが集い、晴天の中、ゴルフを満喫することができました。

我が校からも16名の精鋭が集い、熱のこもるラウンドを展開しました。

終わって久々の表彰式で成績発表を待つドキドキ感も楽しいもので、談笑しながら互いのプレイを振り返り、近況を語り合いなどして発表を待ちました。

結果、数年ぶりの団体優勝、皆で「山口高等商業学校」の校歌を晴ればれと合唱しました。今年は幹事校でもあり、達成感が大きい大会となりました。

記

最後は来年の再会を誓い、笑顔で帰路につきました。

【団体戦】

(各校ベスト12の合計)

優勝 山口大学

準優勝 長崎大学

3位 大分大学

【個人戦】

(ベスト10、敬称略)

2位 森川 康朗(学29)

5位 渡邊 龍雄(学24)

7位 林 頼二郎(学18)

10位 脇野 賢一(学24)

【参加者】(敬称略)

立花弘喜(学11)、木下兼吉(学13)、八尋洋士(学14)、

令和5年度

支部総会・懇親会開催

鳳陽会福岡支部は、令和5年12月6日に福岡市内西鉄グランドホテルにて、令和5年度福岡支部総会・懇親会を開催いたしました。

昨年の総会・懇親会は3年振りの開催となりましたが、まだコロナ禍とあつて、着座で間隔をあげ、マスク着用、会員相互の懇親にもまだまだ制限のある総会・懇親会でした。そしてコロナ明けの開催となった今回の総会・懇親会は、本部から石畠事務局長にご出席いただき、福岡支部会員とともに総勢47名の出席のもと、従来の形で開催いたしました。

総会では、川上支部長の議長にて通常議題及び支部長交代を含めた新役員案

すべてを承認いただき、新しい体制が決まりました。

懇親会に移り、川上支部長最後のご挨拶に始まり、来賓でご出席いただいた石畠事務局長よりご挨拶をいただきました。ご挨拶では、この4年近くコロナ禍での、山口大学経済学部生の苦難や戸惑い、鳳陽会活動においても同様の苦難から、各支部ようやく活動を再開し、会員の皆様が集まれるようになった様子などを話していただきました。

乾杯の後は、久しぶりの懇親を深める中で、皆さん大いに話に花を咲かせていました。

その後、森川新支部長からのご挨拶及び新任の役員紹介をいただき、いよいよ恒例の校歌斉唱を迎えました。昨年のコロナ禍では、校歌CDを聴いていただき、各自心の中で静かに独唱となりましたが、今年は、従来のように諸先輩有志の方々が、壇上に上がられ音頭をとっていただ

き、全員で声高々に斉唱をいたしました。

従来に比べるとまだ出席者は少なめですが、それでも会員の皆様お互いに元気な様子を確かめ、また次回の再会を期して閉会となりました。

【支部長交代のお知らせ】
(旧) 川上 知昭(学26)
(新) 森川 康朗(学29)
(学36 鍋島)



宮崎支部

―第51回支部総会・懇親会
並びにゴルフコンペを
開催―

去る9月23日(土)、宮崎市内「ホテルマリックス(シアマール)」にて、令和5年度の支部総会・懇親会並びにゴルフコンペを4年ぶりに開催しました。

参加者は総会・懇親会が19名、ゴルフコンペには6名。総会では、当日川崎支部長が急遽欠席となったため、西川代表幹事の冒頭挨拶に引き続き、議案審議として第1号議案「令和2年度から令和4年度までの決算収支報告(一括審議)」、第2号議案「役員改選」が行われ全会一致で承認しました。

その後、報告事項として「令和元年度から4年度までの活動報告(一括報告)」並びに「令和5年度活動計画及び収支予算報告」を読み上げ、質問もなく無事に総会を閉会いたしました。

総会閉会後に全員で写真撮影をして、懇親会が古賀康夫(学18)先輩の乾杯で始まりました。当初は和やかなうちにスタートしましたが、途中で恒例の参加者全

員による近況報告が行われると笑いあり涙ありで楽しいひと時を過ごしました。

今回初参加した今村昇平(学29)氏や10年ぶりぐらいに参加した海野裕一郎(学29)氏など、年長者から若手までそして新旧メンバーも参加し、更に経済学部出身ではありませんが、宮崎在住ということで文理学部出身の關陽子さんが今年も参加してくれて、本当に賑やかな会となりました。

最後に中久保俊夫(学34)氏の一本締めで締め、来年



の再会を約して散会しました。

一方、昼はゴルフコンペも行われました。朝のスタートは小雨が降る中でしたが次第に晴れ間が出来てきてこちらも楽しいコンペとなりました。優勝者は小野豊昭(学29)氏でした。



【総会懇親会参加者】

(敬称略)

前列右から田口慎也(学46)、稲田浩幸(学40)、古賀康夫(学18)、小野豊昭(学29)、海野裕一郎(学29)、三木英俊(学24)、小濱修一郎(学39)、松田浩二(学46)、西田浩二(学42)、後方右から中腰の伊藤一輝(学64)、西川義久(学35)、中久保俊夫(学34)、永野貴

士(学31)、児玉浩二(学31)、山本文昭(学34)、今村昇平(学29)、高村圭汰(学64)、關陽子(文理)、佐久間沢(学57)

【ゴルフコンペ参加者】

(敬称略)

前列右から松田浩二(学46)、山本文昭(学34)、小野豊昭(学29)、中久保俊夫(学34)、田口慎也(学46)、伊藤一輝(学64)

(学29 川崎康司 記)

長崎支部

―支部総会開催―

令和5年10月21日土曜日、JR長崎駅近くの「サンプリエール」にて、他学部卒業の3名を含む24名の同窓生が参集し、令和5年度の支部総会・懇親会を開催しました。

はじめに井手支部長より、コロナ禍の影響により交流が出来なかった同窓生との再会を果たせた喜びと、活動の制約を受けていた支部活動をコロナ禍後、今回4年振りに開催した本支部総会を契機として活性化して行こうとの挨拶がありました。

その後、梅沢先輩の乾杯

の発声により懇親会はスタート。

4年のブランクはありましたが、例年通り非常にアットホームな雰囲気では進み、お酒が進むにつれ誰もが席を入れ替わり立ち替わりし、若手からベテラン各年代入り交えて様々な話で盛り上がりました。改めて「山口大学」という絆のもと、世代や仕事を越えて集まり、語り合う時間は非常に有意義でした。

毎回恒例の自己紹介兼近況報告では、4年分の「山口大学」や「鳳陽会」に対する熱い思いや、学生時代の部活動や山生定番アルバイトの旅館での布団敷き、布団上げの思い出話で大変盛り上がりました。

最後に、井手支部長が「山口高等商業学校校歌」「山口大学学生歌」について説明し、そのあと両歌を全員で斉唱。長崎支部の活動を今後も盛り上げていこうと誓い、終了予定時間を1時間も超える盛会裏にお開きとなりました。

【参加者】(経済学部卒のみ)井手義和(学15)、村山昇(学16)、梅沢成徳(学17)、素山昭(学23)、川橋哲之介(学



27)、平野勇介(学28)、富卓(学30)、小林智(学34)、佐野玄弥(学37)、三浦芳生(学40)、田崎直弘(学40)、溝田照久(学41)、中里誠一(学44)、真浦一将(学44)、辻郷正芳(学45)、岩井信一郎(学45)、向井孝介(学50)、田中将太郎(学53)、野中貴嗣(学56)、浦川恵(学60)、杉山基(学64)

(支部代表幹事 学45 辻郷正芳)

「鳳陽会」は、皆様方の年会費を基本にして運営しています。

住所・氏名等、変更された場合は
お知らせください

住所・勤務先など変更がございましたら、事務局まで
ご連絡ください。

連絡方法は下記の通りです。よろしくお願いいたします。

TEL & FAX : 083-924-4361

Mail : houyou99@crocus.ocn.ne.jp

ホームページ (<http://www.houyou.or.jp/>)からの変
更手続きも可能です。

是非ご活用ください。

鳳陽会

検索



学部
短
信

次のとおり先生方の異動をお知らせします。

(敬称略)

新任(令和5年10月1日付)

前原 ひとみ 経済学科 講師

(静岡県立大学短期大学部一般教養等・

東洋学園大学現代経営学部 非常勤講師から)

富田 愛優 経済学科 講師

麻田 玲 経済学科 講師

(国際協力機構(JICA))

緒方貞子平和開発研究所

研究員から)

寄付金納入者
ご芳名(敬称略)

令和5年8月1日

12月15日現在

学1 石井 重人

学2 石川 静雄

学15 井手 義和

学42 石津 静香

動
静

住所変更

学14 松田 陽一
学23 谷岡 正美
学24 琴野三規夫
学24 中村 博史
学31 辻 俊
学32 住田 信也
学32 玉理 浩志
学32 長岡 佳孝
学32 丹黒 浩一
学35 三宅 裕士
学35 藤澤 正宏
学36 大井 博幸
学38 三浦 孝
学40 林 重雄
学45 金 重
学45 惣田 英樹
学46 伊藤 貴史
学46 田中 大輔

謹んでお悔み
申し上げます。



★高商経専の部

宮本 幸治(経専39) 5
藤原 直人(経専41) 4
須磨 吉仲(経専42) 28
桂 清明(経専42) 5
脇本 和彦(経専42) 4
3
5
11
20

★大学の部

藤野 太郎(大学1) 5
椎木 得臣(大学2) 5
池永 弘毅(大学2) 5
長沢 徳(大学3) 5
藤本 和也(大学4) 3
3
11
20

住所不明者

会報が返送されます。住所
をご存知の方はお知らせ下さい。

学2 重田 正雄
学67 須藤裕太郎
学69 上田 友菜
学69 尾崎 翔也
学69 坂田翔太郎
学69 杉江 一樹
学69 藤井 美月
学69 森 拓希
学69 山内 英司
学69 山近 麗子
学69 山本 駿

学71 増成 樹
学70 深野 航大
学70 二宮 寛大
学70 渡壁 拓也
学70 山田 凜
学70 矢野 拳介
学70 村田 和嗣
学70 松原 正和
学70 松尾 優音
学70 長崎 航洋
学70 田代 詞穩
学70 島津 弘樹
学69 小林 豊芽
学71 西山 晴香

木原 寛(大学4) 5
宮崎 茂昭(大学4) 3
中村 幸雄(大学5) 5
秋本 博之(大学6) 5
吉山 睦雄(大学7) 4
浜見 道也(大学10) 3
田原 宏(大学11) 3
永迫 博司(大学11) 5
香月大三郎(大学12) 5
馬場 省三(大学16) 5
宮本浩一郎(大学17) 5
馬渡 康憲(大学17) 5
大林 敏雄(大学19) 5
爲近美由紀(大学24) 5
三原 淑人(大学32) 5
加来 典崇(大学41) 29
29
6
4

寮歌祭

—日本寮歌祭開催—

♪東京支部有志が

鳳陽寮寮歌熱唱♪

第63回日本寮歌祭が令和5年11月26日、東京・日暮里のホテルで開催された。北海道から九州まで全国の大学の同窓生が参加。鳳陽会東京支部の有志は鳳陽寮寮歌を熱唱した。

◆開会式で檄(げき)

午前11時から、開会式が行われた。開会宣言や日本寮歌振興会会長と日本寮歌実行委員長の挨拶の後、旧制姫路高校OBの故奥村豊氏が記した檄(げき)を鳳陽会東京支部支部長、塩塚保が声高らかに代読した。

「寮歌をこよなく愛する全国の朋友、集い来ぬ 寮歌は(中略)青春の浪漫を歌い、若人の感激と感動に満ちたる生命の躍動なり・・・」

そして参加者全員で乾杯。いよいよ、寮歌高唱が始まる。各大学の同窓生は「日本寮歌祭」と染め抜いたハチマキを締めて母校の寮



木村リーダーのもと、寮歌を熱唱

歌を次々に歌っていった。

◆明治時代の寮歌

山口高商の伝統を受け継ぐ、我が山口大学経済学部は前半に登場した。

同窓生は山口高商の校章が入ったオレンジ色の法被(はっぴ)を着用して壇上に立った。袴に高下駄の木村進リーダー(学11)が指揮をとる。同窓生は肩を組み、明治時代、佐々政一作歌の鳳陽寮寮歌「花なき山」を一番から4番まで熱唱した。「花なき山の 山かげの月も宿さぬ 川の辺のはせに立ちたる 学び舎に起き伏す友よ いざつとへ」

寮歌を歌い切った。会場

から大きな拍手が沸き上がる。同窓生たちは意気揚々と壇上を去っていった。

◆鳳陽寮のストーム

伝統を誇る鳳陽寮は1970年代まで山口市亀山の近くに健在だった。鳳陽寮は南寮、中寮、西寮、北寮、そして西北寮の5寮で構成されていた。

それぞれの寮に寮長がいて独自の寮風、寮歌を受けて独自の寮風、寮歌を受け継いでいる。

私は北寮に入寮した。新寮生は入学早々に行われる歓迎コンパで寮の先輩から寮歌を教えてもらう。鳳陽寮寮歌「花なき山」、山都逍遙歌、そして北寮や南寮、中寮などの寮歌。覚えるべき寮歌は多かった。

なぜ、北寮の寮生が他寮の寮歌まで覚えなくてはならないのか。それはストームのさい、他寮の寮歌も歌わなくてはならないからだ。

寮生は一の坂川沿いの惣野旅館でコンパを行う。したたかに酔い、昂然とした気分が鳳陽寮に戻ってくる。我が北寮寮長が寮内放送で荒々しくストームを告げる。北寮生が最初に向かうのは南寮だ。南寮の寮生はあわただしく部屋を出て廊下に整理。北寮生を出迎える。



参加した同窓生

まず、北寮の寮歌を歌う。次に南寮の寮歌を歌う。南北の寮長がエールを交換。全員が肩を組み、山都逍遙歌を熱唱する。

北寮生は南寮生に見送られて、中寮、西寮、そして西北寮へと向かうのだ。気分が高揚する。愉快。愉快。愉快だった。

日本寮歌祭に参加してあのすばらしい青春の日々を思い出した。

鳳陽寮は閉寮となり、姿を消した。だが、寮歌は山口大学経済学部の同窓生に愛されている。これからも若い世代に歌い継がれていくことを願っている。

(東京支部 学23 塩塚 保)

第170回鳳陽忌

山口大学、そして経済学部は、文化12年(1815年)、萩藩士上田鳳陽先生が創設された「山口講堂」に始まります。このため、昭和2年(1927年)1月には「山口高等商業学校同窓会」は、上田鳳陽先生に因み「鳳陽会」と改称され、今日に至っています。

先生は、嘉永6年(1853年)12月8日に長逝されました。祥月命日であるこの12月8日には、毎年、鳳陽会山口支部が「鳳陽忌」を執り行っています。



昨年、令和5年(2023年)にも、12月8日(金、第一七〇回の節目となる

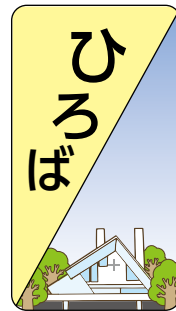
「鳳陽忌」が山口市大内御堀の乗福寺境内で厳かに執り行われました。

まだ夜の明けきっていない午前7時前、薄暗く、冷たい凜とした空気の中、出席者は、本堂裏にある上田鳳陽先生のお墓の前に集合。乗福寺の五十部住職の読経の中、順番に焼香を行いました。



「鳳陽忌」には、山口大学から総務企画部基金事務局の戸部敬博特命担当課長、中尾淑乃副課長(学長特命補佐)及び経済学部から有村貞則学部長、福岡和子事務長、また、鳳陽会からは、山口支部の久芳博安(学19)前支部長、濱田泰(学26)支部長、兼清宏之(学38)副支部長、重政一慶(学50)総務幹事及び石畠克幸(学26)鳳陽会事務局長の計9名が出席しました。

文責 石畠(学26)



備前焼のメダル

観光県山口には、

「おいでませ 山口へ」

というフレーズがある。これを岡山版でいくと「きんちやい岡山へ」もしくは「来られー岡山へ」「おいでんさい岡山へ」とでもなるうか。

昨年11月に、市民マラソンとして、おかやまマラソンがあった。大会アンバサダーはオリンピックで銀銅のメダルを受賞した有森裕子氏がしている。「メダルの色は、銅かもしれないけれど……初めて自分で自分をほめたいと思います」の言葉はあまりにも有名なだ。

このマラソンは市民マラソンとして、そして、途中で補食として提供されている地元食の充実度が有名である。B級グルメの聖地岡山ならではの。

かつては、ひるぜん焼そば、津山ホルモンうどん、日生のカキオコ、岡山ラーメン、デミグラス丼が提供

されたところと、もう口の中には唾液がいつぱいたまりそう。

岡山市内の比較的平坦なコースを競技の場としている。沿線には高校もあるの、住民の応援だけでなく、高校生の吹奏楽部の応援、ダンスパフォーマンスと応援団の姿も楽しみである。



会場となった桃太郎大通り

何といつても、最大の目玉は、時間ゲートが設けられている中、時間内にクリアして完走した者には、「備前焼の完走メダル」が授与される。このメダルは、貴重で、重みがある。



獅子の会(学17期・昭和44年卒)の皆さんへ!

「卒後55年の集いinやまぐち」開催のお知らせ

●開催日: 令和6年4月4日(木)

●場所: セントコア山口(湯田温泉)

●集合時間: pm5:00

(懇親会開始はpm6:00 宿泊者はpm3:00チェックイン可能)

●会費: 8,800円(懇親会パーティ他)

※宿泊希望者はセントコア山口を確保しています。
(宿泊費: 10,000円程度)

※ゴルフ希望者は翌日の5日に宇部カントリー東コースを予約しております。
(費用: キャディ・昼食付で14,100円程度)

※参加者のご希望を支部幹事が伺っておりますが、この会報でぜひ参加をしたいとご希望される方は再度支部幹事か事務局まで申し出ください。

※不参加の方々で可能な方は「近況報告」を事務局宛にメール等頂ければ参加者の皆様にご報告致します。

●連絡先: 事務局 宮崎修五

(携帯: 090-4716-2893 メール: zte01774@nifty.com)



(旧経済学部前の銀杏)

鳳陽会会員の皆さんの中にも、マラソンを趣味として、既に参加をされている方、まだ参加されていない方も含め、一度岡山へ足を運ばれ、「備前焼の完走メダル」の授与を目指されては如何であろうか。

岡山の各放送局の若いアナウンサーも放送に初めて出演する「鳴きはじめ」と同様に「おかやまマラソンデビュー」することを大切に

している傾向がある。次回、2024年11月10日となる。抽選当選後の出場となる出場枠ではあるが、毎年参加している人は完走と同日に翌年大会日前日の宿泊を予約するという。

「いつペン来られー岡山へ」

本号の内容	
新年のご挨拶	1~2
学園だより	2~6
支部だより	6~9
寄付お礼	10
動静	10
寮歌祭	11
鳳陽忌	11
ひろば	12

事務局から

鳳陽会では皆さまからのご投稿を心よりお待ちしております。

学生時代の思い出や、催しのご案内など何でも結構です。詩、短歌、俳句、写真など、皆さまの作品も大歓迎です。

また、会報「鳳陽」だけではなく、ホームページの「鳳陽会だより」「支部だより」への投稿・掲載も大歓迎です。詳細は事務局へお問い合わせください。

事務局では会報「鳳陽」及びホームページの一層の充実に向けてまいります。何卒ご理解、ご支援をよろしくお願い致します。

(Y)